

# 第1学年 国語科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

【生徒の現状】授業評価アンケート結果から「教材や宿題の準備を忘れずやっている」では98%、「次の授業も頑張ろうと思うか」についても92%が「あてはまる」「だいたいあてはまる」と答えている。「授業を受けて学んだ事をもっと詳しく知ろうと思った」に対しては87%に留まっている。

- ・授業や漢字小テストに取り組む意欲は高いが、文章を書くときに既習漢字を使おうとしない生徒の割合が高い。
- ・話し合い活動は積極的に行い、それぞれが自分の考えを述べるができる。

## 【生徒の学力・学習状況等の課題】

- ・漢字の学習が単なる作業となっているため、同音異義語、類義語に対する関心が薄い。語彙力向上を意識する必要がある。
- ・単語や箇条書きではなく、文章による自分の考えを説明する力、表現する力を付けること、適切な漢字を使って表現する力が不足している。
- ・話し合いを踏まえて自身の考えを再構築する力を付けることが課題である。

## 【具体的な授業改善策】

- ・話し合いや意見交換後は、それらを踏まえて再度自分の考えを見直す時間を設け、できる限り文章化させる。その際、話し合いの前と後の自分の考えを大切に、例えば自分の考えを書いたものを消さずに残すことや、他人の意見は色を変えて記入するなど、自分の考えにプラスしていく授業、ノート作りを確認する。
- ・辞書を使った意味調べを積極的に行い、主要な単語、類義語、対義語を意識させる。特に一年生の間は意識的に言葉の意味を確認する機会を設け、繰り返し確認していく。
- ・単語→箇条書き→短文→文章のステップに基づき、個々の力に応じて少しずつ長い文章、分かりやすい文章が書けるよう、書く機会を増やし文章に書き慣れる学習活動を行う。

# 第1学年 社会科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

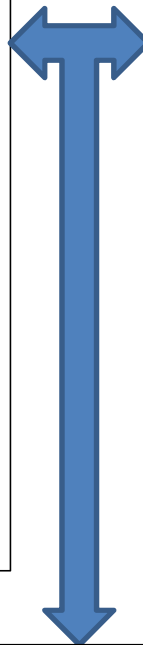
- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 学力向上を図るための調査や 普段のテストなどの結果分析を含む

- ・授業評価アンケートの結果から、授業の意欲について肯定的に捉えた生徒は94%と高めである。態度も真面目ではあるが、授業での理解度をみると、社会科を日頃から家庭で学習(予習・復習)している生徒は少ない。
- ・テストの記述問題では、書こうとする姿勢は見られるが、何が問われているかを捉えられておらず不正解の生徒が3分の1程いた。また、漢字や重要語句が正確に身に付いていない。

### 【生徒の学力、学習状況等の課題】

- ・学んだこと(基礎・基本)を定着させる家庭学習の習慣化が課題である。
- ・資料やグラフ等を見てその特徴や変化を読み取り(思考・判断力)、問われていることに対しきちんと自分の言葉でまとめる力(表現力)を身に付けることが課題である。
- ・社会的事象に対し、関心を高めていくことが課題である。現在、世の中で起きている身近なニュースに興味をもつことも必要である。



### 【具体的な授業改善策】

- 生徒の興味を引き出すような「資料」の工夫
  - ・視聴覚教材を多く活用する。(デジタル教科書、書き込み地図、実物資料など)
  - ・新聞やニュースなどの身近な話題を活用する。
- 基礎・基本の定着
  - ・授業の振り返りで、小テストを行い、重要事項の確認をする。
  - ・授業の導入で、前時の内容の復習を質問形式で行い、重要事項の確認をする。
  - ・定期的にワークを家庭学習の課題とし、提出させる。
- 思考力・判断力・表現力の育成
  - ・「なぜ」「どうして」という問いを中心に授業構成を考える。
  - ・資料や写真・グラフなどから、特徴や変化・背景を読み取り、まとめさせる。
  - ・授業の中に、生徒の話し合い(言葉にする)場面をできるだけ多く取り入れる。

# 第1学年 数学科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

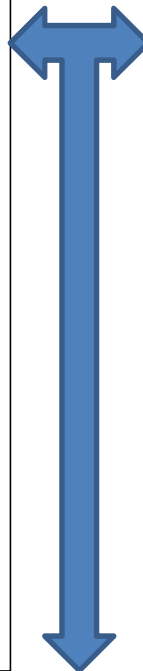
- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【課題学習や普段のテストなどの結果分析による生徒の現状】

- ・校内テストの結果から、「技能」「知識」の項目は達成率が高いが、それ以外の観点は低く、特に「数学的な見方や考え方」の項目は5割以上の生徒が不正解となっている。
- ・校内テストの結果から、基本的な計算力は付いているが、文章を読み取り立式する力が低いことが分かる。
- ・授業アンケートの結果から、授業中に意欲的に取り組めた割合は約90%と高いが、宿題などの学習に取り組めていない割合(8%)も軽視できない。

### 【生徒の学力、学習状況の課題】

- ・学習に興味をもって意欲的に取り組むことが課題である。
- ・問題の指示や題意を正確に読み取ることが出来るようになることが課題である。
- ・解き方を覚えて解くことはできるが、新しい出題形式を自分で解釈して解くことに課題がある。
- ・根気よく問題解決に向けて試行錯誤を繰り返す粘り強さに課題がある。
- ・家庭学習の定着に課題がある。



### 【具体的な授業改善策】

- ・興味・関心もてるような導入の仕方や教材の工夫をする。体験的活動を増やし、主体的かつ能動的に取り組めるような学習を取り入れた授業展開を行う。
- ・問いの問題文をしっかりと読ませる。話をしっかりと聞くなど、普段の授業から意味を考えながら文章を読む習慣を身に付けさせる。
- ・論理的に考える時間を設定し、様々な考え方を互いに交流させ、見方・考え方を身に付けさせる。
- ・毎回宿題・課題のチェックを行い、家庭学習が定着しない場合は家庭の協力を仰ぐ。
- ・比較量、基準量、割合の関係など場面を具体的に設定し、確実に理解させる。

# 第1学年 理科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 授業アンケートや普段のテストなどの結果分析を含む

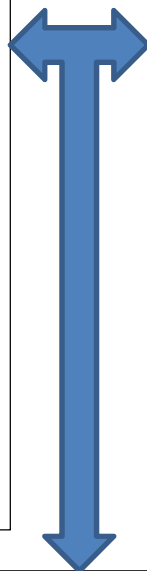
- ・授業に集中し、意欲的に取り組んだ生徒が90%。
- ・授業道具や宿題忘れの項目では24%が不十分、やや不十分と評価していた。
- ・授業が分かりやすいか、解き方・考え方が理解できたかという項目について不十分などのマイナス評価が20%近い。難しい内容を無理して取り組み、成果があがらないことは多い。

#### (定期考査の結果から)

- ・問題文を正しく読み取る、考える(思考)問題や、実験・記述問題に課題がある。
- ・知識理解の問題については、伸びてきている。定期テストの結果も正解率70%程度。

### 【生徒の学力、学習状況等の課題】

- ・意欲的な生徒が、さらに向上心を高めていくこと、及び、数は少ないが意欲の低い生徒が、関心を持ち、基礎学力を向上していこうとすることが課題である。
- ・宿題・課題を忘れずに提出する習慣を多くの生徒が身に付けていくことが課題である。
- ・思考力をさらに付けていくことに加え、基礎知識をさらに定着させていくことが課題である。



## 【具体的な授業改善策】

- ・理科に対する興味関心や学習意欲の向上を図る。
  - 【適切な教材の準備・・・身の回りの生活に密着した話題の提供や問いかけを行うとともに、実用例を挙げ、実生活に知識が役立っていることを伝えていく。】
  - 【実験観察等の体験の機会を増やす。】
  - 【視聴覚教材の活用を進める。(デジタル教科書の活用を図る)】
- ・基礎学力の定着を図り、発展的学習へとつなげる。
  - 【小テスト等を実施し、短い範囲の復習と確認を行う】
  - 【文章や表、グラフ、図でまとめ、表現する能力を伸ばしていくために、定期的に実験観察のレポートを書かせる。】
  - 【知識の暗記だけで終わらせないよう、応用問題を出し、発表させることで思考力が付いてきているか確認させる。】
  - 【話し合い活動を通し、たくさんのアイディアを出すことで、考える力と表現力を養う。】

# 第1学年 英語科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

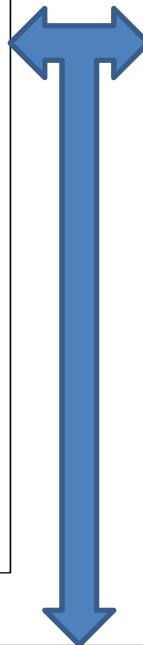
- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 学力向上を図るための調査や 普段のテストなどの結果分析を含む

- ・授業アンケートの結果によると、「先生の説明は分かりやすかった」と回答した生徒は96%、「解き方や考え方、やり方が理解できた」と回答した生徒は96%、「授業の道具の用意や宿題などを忘れずにやっている」という生徒が86%であった。
- ・小学校からの外国語活動の取り組みにより、コミュニケーション活動は積極的に取り組む。
- ・英文を読み、内容を理解することは苦手な生徒が少なくない。
- ・英文を書くことが苦手な生徒も少なくない。

### 【生徒の学力・学習状況等の課題】

- ・「授業の道具の用意や宿題などを忘れずにやっている」という生徒が、86%に対しては、まだ学習に取り組む姿勢が身につけていないということであるので、今後、しっかりと身につけていくことが課題である。
- ・既習内容の表現をペアワーク活動等を通して、「話す」「聞く」の学習環境に慣れ、実践的なコミュニケーション能力を身につけることが重要である。
- ・「書くこと」が今後の課題である。例えば、教科書の基本文を書けるようになるまで学習する生徒がまだまだ少ない。



### 【具体的な授業改善策】

- 既習事項が定着できる工夫をする。
  - ・基本文テストを今後も継続して行い、既習英文の定着を図る。
  - ・様々な音読方法を使い、繰り返し指導を行う。
  - ・教科書の予習以外で、復習課題を確実に行わせるように徹底する。
- 生徒自ら積極的に表現できる姿勢・能力を育てる。
  - ・ALTとの会話練習によってさまざまな表現に親しみ、コミュニケーション能力を伸ばす。
  - ・グループワークやペアワーク等を通して、既習の文法を使った会話の表現を身に付けさせる。
  - ・会話文のパターンを覚えさせることにより、継続して会話を続けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導を充実させる。
  - ・まとまった英文を書けるように段階を追って、指導していく。
- 生徒の英語への興味を高める。
  - ・継続的に授業の導入に Teacher Talk や oral introduction を行い、生徒とのやりとりを入れていく。



# 第1学年 音楽科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 学力向上を図るための調査や 普段のテストなどの結果分析を含む

#### 授業アンケートより

- ・毎時間の授業内容は、90%以上の生徒が分かりやすいと回答している。
- ・91%の生徒が意欲的に授業を受けている。

#### ワークシートや定期考査より

- ・どのように工夫して歌うか、意図を自分の言葉で書いている生徒が少ない。
- ・楽譜から、リズムや強弱、速度など、表現に必要な要素を読み取る力が課題である。

### 【生徒の学力・学習状況等の課題】

- ・歌うことに抵抗感を無くし、積極的に歌唱表現ができるようになることが課題である。
- ・鑑賞分野で、音楽の要素と感じたことを結びつけて鑑賞文を書くことが課題である。
- ・学習した音楽の要素を他の曲などで応用することが課題である。

## 【具体的な授業改善策】

- ・授業の導入部分で様々なパターンの発声練習を行い、歌唱表現への抵抗感を減らす。
- ・班の中で鑑賞文を発表し合うことを通して、音楽的要素を含む語彙を少しずつ増やしていく。
- ・合唱練習のパート練習の中で、どのように表現したいのか話し合う場を設定し、思いや意図を深めていく。パートのリーダーを育て、自分たちで主体的に合唱をつくりあげられるようにする。
- ・パートごとなど少人数のグループに楽譜の読み方を指導することを繰り返し、楽譜を読み取る力を身に付けさせる。小テストを通してリズム、強弱、速度などの音楽的要素への理解を深めさせる。

# 第1学年 美術科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】

- ・ どの生徒も真面目に主体的に授業に取り組むことができている。
- ・ 制作活動を得意とする生徒も多く、質の高い作品が多く見られる。
- ・ 絵の具やペンチ等の扱いなど、基礎的な知識が不足している。
- ・ 丁寧に作業に取り組むことができるが、反面、完成までに時間がかかりすぎる傾向がある。
- ・ 忘れ物など基本的な生活習慣にまだ課題がある。

### 【生徒の学力・学習状況等の課題】

- ・ 美術への関心が湧かない生徒にどのように働きかけるかが課題である。
- ・ 作業をよりスムーズに展開するために、きちんと作業工程を見通して制作に取り組むことが課題である。(進み具合がちょうど良いと感じない生徒約5%)
- ・ 基礎的な技法や美術に関する知識の習得が課題である。
- ・ 忘れ物などに対する指導を継続的に行う必要がある。

### 【具体的な授業改善策】

- ・ 生徒の興味が湧くように見本教材などへの配慮、工夫を行っていく。
- ・ 各工程の内容や目的を明確化する。
- ・ 課題ごとに、必要となる技術や知識についての説明を充実・工夫する。  
得た技術や知識を活かして、主体的に制作に取り組めるように、制作の幅を設ける。
- ・ 美術史などの時間を増やし、より深い知識を身に付けさせる。
- ・ 持ち物の確認など、忘れ物がでないように指導を行っていく。

# 第 1 学年 保健体育科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 学力向上を図るための調査や普段のテストなどの結果分析を含む

- ・生徒に実施した授業アンケートより  
『意欲的に取り組んでいるか』という設問に対して、『大変良い』『良い』と肯定的な回答をした生徒の割合が、男女ともに 95%と高く、体育に対して前向きに取り組んでいる生徒が多い。
- 『解き方、やり方が理解できたか』という設問に対しても肯定的な回答が男子で 97%、女子で 95%と高い割合を占めている。
- ・基本的な運動能力は高くはないが、意欲的に取り組んでいる。
- ・定期考査をみると、一問一答で知識を問う問題の正答率が高い。しかし運動の局面を限定して、その課題を捉え、解決に向けた合理的な運動方法を記述するという思考を問う問題では誤答もしくは空欄が多い。

### 【生徒の学力、学習状況等の課題】

- ・集団内で基本的な運動能力に極端に大きな差は見られない。柔軟性や持久力に課題のある生徒が多いので改善していくことが課題である。
- ・日常的な運動習慣の少ない生徒が多く、上手に運動を行うことができる生徒が少ない。多様な運動に取り組むことが課題である。
- ・自らの運動を分析し、考えを書くような課題に対して、意欲をもって取り組むこと、問われている内容をしっかりと読み取ることが課題である。

### 【具体的な授業改善策】

- ・個々の目標を定め、その達成に向けた運動に取り組ませる授業を展開していく。
- ・補強運動、コア・ティネーショントレーニング等を授業の中に取り入れて体力の向上を図る。
- ・生徒がよりよく運動するために、自己の課題を見付けやすい学習カードを工夫する。
- ・論理的に言葉で表現し、教え合える能力を向上させるためにペアやグループでの活動を取り入れる。また、運動をよりよくするための課題を発見し、その解決策を考えさせることで、思考力を養う。



# 第1学年 技術科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 学力向上を図るための調査や 普段のテストなどの結果分析を含む

授業アンケートより、

- ・宿題・課題を忘れずにやっていますかという質問に、95%の生徒が「大変良い」または「良い」と答えている。
- ・授業中、学習に積極的に取り組みましたかという質問に、97%の生徒が「大変良い」または「良い」と答えている。
- ・授業の進み具合はちょうどよかったですかという質問に、97%の生徒が「大変良い」または「良い」と答えている。

### 【生徒の学力、学習状況等の課題】

- ・宿題をすぐに終わらせる習慣を身に付けることが課題である。
- ・意欲的に発言ができ、主体的な活動ができることが課題である。
- ・生徒全員が進度を揃えて学習に取り組むことが課題である。

## 【具体的な授業改善策】

- ・宿題を定期的に出し、習慣付けを意識する。
- ・定期的に、意見を発表する機会やグループワーク等の生徒主体の活動を設ける。
- ・作業進度が確認しやすいように、作業の流れを板書する。作業の進度に差が生じた場合は、生徒個々に対応する時間を可能な限り確保する。
- ・協働学習の機会を意図的に設け、早く進んでいる生徒が自主的に助け合うようにする。

# 第1学年 家庭科 授業改善推進プラン

## 【学校として「目指す学力」「目指す授業」】

- 1 日常的な学習習慣の定着により基礎学力を向上させる。
- 2 授業や単元の目標を明示し、生徒自身が到達度を確認できる授業を行う。
- 3 教師の授業力の向上を図り、生徒が意欲的に授業に取り組めるように授業と評価を工夫する。

### 【生徒の現状】 学力向上を図るための調査や 普段のテストなどの結果分析を含む

- ・毎時間の学習内容は、積極的に取り組む生徒が多く(96%)説明も理解(98%)しているようである。
- ・考え方、やり方を96%の生徒がほぼ理解している。(数値はアンケート結果より)
- ・作品製作に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。

### 【生徒の学力・学習状況等の課題】

- ・作品製作で基本的な作業(玉結び・玉どめ等)が出来ない生徒がいることが課題である。
- ・作業時間内に作業が終わらない生徒がいることが課題である。
- ・定期テストで基本的なことができない生徒がいることが課題である。

### 【具体的な授業改善策】

家庭科に対する興味関心や学習意欲の向上を図る。

- ・作品の発表会を行い他者から学ぶ。
- ・実技・実習を重んじた授業を行う。縫い方の師範を何度も行う。

基礎学力の定着を図り、生活に役立つようにしていく。

- ・授業プリントのポイントを確認をしていく。
- ・作業や話し合いを取り入れていく。